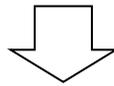


## 検討会議の目的

### 1 京都市において自動運転の社会実装に向けた検討を行う意義

#### <京都市の都市特性>

- (1) 観光地が市内に点在し、生活交通と観光交通が混在する。
- (2) 春や秋の観光シーズンのピーク期には、著しい交通渋滞が発生し、特別な対策が必要となる。
- (3) 大学が多く、市内居住者のうち学生の年齢層が突出して多い。
- (4) 戦災をほとんど受けず、古い街並みと細街路が多く残る。
- (5) 市街地がほぼ平坦な盆地であるため、自転車利用が多い。
- (6) 人口密度の高い市街地と、広大な中山間地域をともに有する。
- (7) 外国人観光客が多く、ここ数年は特に増加が著しい。



京都の市街地、特に都心部は、公共交通網が整っており、自動車分担率が低くなっているが、800k㎡を超える広大な市域の郊外部、特に中山間地域においては、マイカーへの依存度が大きい居住者が多くなりがちである。京都は、生活交通と観光交通の錯綜や高齢者の移動手段の確保など交通に関する課題が地域によって多岐にわたる。

交通に関する多様な課題があるからこそ、自動運転技術の効果が発揮できる可能性が高く、全国の多くの都市に準用できるモデルを見出し得る可能性がある。

### 2 検討会議での議論の対象

- 高速道路における人とモノの移動など、都市間交通の自動運転については、国の取組を注視していくこととし、本検討会議では、一般道路における市内で完結する人とモノの移動や、端末交通の部分に的を絞って議論を進めていく。
- また、路線バスをバス停に正着させる技術、効率的な交通管理の仕組みなど、人とモノの移動に必要な手段、設備・機器、システム、技術、効率的な利用方法やノウハウを幅広く議論の対象とする。